



宇都宮市立図書館にある 日光東照宮に関する本

◆日光東照宮と宇都宮

『宇都宮市史 第6巻 近世通史編』(宇都宮市史編さん委員会／編 1982)【K210】

江戸時代、宇都宮は将軍の日光社参の宿泊地となり、あるいは宇都宮藩主戸田家が将軍の名代として日光へ参詣した。また、天狗党事件や戊辰戦争で、日光を守る立場にあった宇都宮藩の対応なども書かれている。

『日光東照宮炎上せず 幕末の動乱』(高橋文雄／著 下野新聞社 1993)【K170】

戊辰戦争での宇都宮から日光にかけての戦いの物語。宇都宮城を明治政府軍に奪われた旧幕府軍が、徳川家の聖地である日光で戦いに臨もうとした。これを回避するために板垣退助らがどう動いたかが描かれている。

◆日光への道

『日光道中分間延絵図 第4巻 絵図篇 石橋 雀宮 宇都宮』

『 同 解説篇』

(東京美術／編 東京美術 1987)【K290】※中央図書館は持禁のみ

『日光道中分間延絵図 第5巻 絵図篇 下・中・上徳次郎 大沢 今市 鉢石』

『 同 解説篇』

(東京美術／編 東京美術 1988)【K290】

江戸幕府が五街道の管理のために道中奉行に命じて作らせた絵図で、文化3年(1806)に完成した。原本は東京国立博物館に所蔵されている。これらを複製復刻して絵図篇と解説篇で構成され、全5巻となっている。沿道の寺社や本陣などの建造物が丁寧に描かれ、当時の町並や村の様子をうかがい知ることができる。

『第6回企画展 日光参詣の道』(栃木県立博物館／編 1984)【K682/ト】

日光街道をはじめ例幣使街道、壬生通りなど、日光へ向かう道は数多くあり、将軍や大名から庶民にいたるまで、さまざまな参詣者があったことを紹介している。

◆日光東照宮について

『日光東照宮の謎』(高藤晴俊／著 講談社 1996)【K170/タ】

日光東照宮において、なぜ徳川家康が神として祀られたのか、なぜ日光が選ばれたのか、そして東照宮の豪華絢爛な彫刻に秘められた謎を、深く掘り下げ、解説している。

『謎と不思議 東照宮再発見 (改訂版)』(高藤晴俊／著 日光東照宮社務所 1991)
【K170/タ】

栃木新聞に1年間にわたって連載した「東照宮再発見」をまとめたもの。建造物や絵画、彫刻など、東照宮を訪れる人なら誰でも目にするものから、つい見逃してしまいそうなものまで、ひとつひとつを写真とともに解説している。

『日光東照宮の装飾文様 人物・動物・絵画』

『日光東照宮の装飾文様 植物・鳥類』

(シーグ社／編 グラフィック社 1994) 【K170/シ】

日光東照宮の建造物群の各所に施された、彫刻・絵画などの数多くの建築装飾を写真で紹介している。

『日光叢書 御番所日記』1～9 (日光東照宮社務所／編 1931～1972)

『日光叢書 社家御番所日記』10～22 (日光東照宮社務所／編 1970～1982)

【K170/ニ】※一部貸出可

貞享2年(1685)から200年あまりにわたって書き継がれた社務日誌で、毎日の天候をはじめ、年中行事・社参・修復など多くの情報が記録されている。

『世界遺産登録記念 聖地日光の至宝』(畑田幸弘ほか／編 NHK プロモーション 2000) 【K170/ハ】

2000年に東京・栃木・横浜・京都で開かれた展覧会の図録。日光東照宮・日光二荒山神社・日光山輪王寺の建造物や宝物など、大きな図版がオールカラーで掲載されている。

『第49回企画展 天海僧正と東照権現』(栃木県立博物館／編 1994) 【K170/ト】

徳川家康を東照大権現として神格化し、日光東照宮造営の中心となった天海僧正にスポットをあてた展覧会の図録。

この他にも資料がありますので、図書館職員にお気軽にご相談ください。

宇都宮市立中央図書館

〒320-0845

宇都宮市明保野町7番57号

TEL : 028-636-0231 FAX : 028-639-0740

9:30～19:00 (金曜休館)

